

校長室から

(H30年度)

ひがしなら通心

茨木市立東奈良小学校 川上 隆 No. 41

平成30年12月11日(火)発行

平成最後の大晦日

12月に入り、今年も残りあとわずかとなりました。12月は、クリスマスや年末年始の準備で忙しい月です。昔は、お盆だけでなくお正月にも先祖の霊を供養していたことから、お坊さんがお経をあげるために西へ東へと走り回っていた様子から「師走(しわす)」とも呼ばれています。

12月31日は1年最後の日、大晦日(おおみそか)です。日本の大晦日には各地でさまざまな伝統・風習があります。多くの人が食べる「年越しそば」もその一つです。大晦日に縁起を担いで食べるそばで、江戸時代に定着した日本の文化です。そばは、他の麺類よりも切れやすいことから、「今年1年の災厄(さいやく)を断ち切る」という意味で年越しに食べるとも言われています。



また、深夜0時をはさんで「除夜(じょや)の鐘」が突かれます。その突く回数は108回と決まっています。107回までは前年の内に突いて、最後の1回は新年になってから突くという決まりもあるそうです。では、なぜでしょう？人には百八つの煩惱(ぼんのう)があり、その煩惱を祓(はら)うためだと言われています。煩惱とは、人の心を惑わせたり、悩ませたり、苦しめたりする心の働きのことです。「欲望」「怒り」「執着」など、その煩惱の数だけ鐘を突いて煩惱を追い払うのです。

伝統・風習には必ず意味があります。毎年なんとなく同じことをしてしまいがちですが、「なぜなんだろう？」と疑問をもって調べたり、人に尋ねたりすれば、その意味が分ります。今年は、特に平成最後の大晦日です。思い出を語り合ったり、新しい年に思いをはせたりと、1年の締めくくりと新しい年を気持ちよく迎える準備をしてください。

失敗は宝物

みなさんにとって今年はどんな年だったでしょうか。今年もあとわずかです。今年もあともうすぐ終わりで、新しい年がやってきます。そこで、来年に向けて目標にしてほしいことがあります。

それは、『失敗をいやがらない』ということです。みなさんのなかには、「失敗することは悪いことだ」とか「恥ずかしいことだ」と思っている人がいるようです。でも、そうでしょうか。「人間は転ぶことで歩くことを覚える」とい

う言葉があります。みなさんもそうだったように、赤ちゃんははじめ歩くことができません。ある時期に立ち上がって歩こうとするようになって、すぐには歩くことはできません。お父さんやお母さんが差し出す手に向かって、何度も歩こうとしては転び、転んでは歩こうとしてがんばります。お父さん・お母さんは、ニコニコしながら赤ちゃんを励まします。そして、とうとう歩くことができた時、お父さんもお母さんも大喜びで赤ちゃんを抱きしめます。

そう、赤ちゃんが転ぶことを「悪いこと」だとか「恥ずかしいこと」なんて思う人はいません。赤ちゃんは、何回も「転ぶ」ことを経験したからこそ、歩けるようになったのです。自転車に乗れる人や逆上がりができる人は、その練習をしていた時には、何度も失敗したこと、それでもめげずに練習をしていたことを覚えているのではないのでしょうか。人間は生まれた時にできないことを、その後にできるようになっていく不思議な動物です。でも、それは「失敗すること」を恐れたり、嫌がったりしてはいけません。

もう一つ大切なことがあります。それは、失敗した人を笑ったり、からかったりしないということです。失敗した人を笑ったり、からかったりする人がいると、がんばる気持ちがくじけます。みんなが赤ちゃんを励ますお父さんやお母さんの優しさをもって、安心して失敗できるクラス・学校をつくる必要があります。新しい年はチャレンジ精神をもって、いい年にしていきたいと思います。

新聞を読んで見て...

NIE学習より

2学期に入り、5年生はNIE学習(Newspaper In Education: 新聞から学ぶ学習)に取組み、社会見学で朝日新聞社にも行きました。そんななか、池田さんの意見が、12月7日(金)の朝日新聞朝刊に載りました。

新聞をがんばって読むと...

小学生 池田 梨紗

(大阪府 11)

新聞って、子どもが読むイメージが全然ありませんでした。でも、ちょっとがんばって読むと読者になれる。とっても楽しいし、情報も知識も得ることが出来ます。新聞が好きになりました。

家のポストを開けて「何だ、また新聞か」と思っていたけど、たくさんの方が関わっている新聞を、配達の方が大事にとどけてくれていることに感謝したいです。

読者の役目も見つけました。新聞をパラパラめくるだけじゃなく、住んでいる地域のことや習い事のことなど、自分のきょう味がさがすのも良いなと思います。

「子どもの色々な問題なんか解決しない」って大人が言っても、社説でちがう大人の意見も聞けるし、コラムで解決方法が見つかるかもしれません。新聞のえいきょう力で世の中を変えることもできるんじゃないかと思います。新聞を読む人が増えてほしいです。